

松下国際財団 研究助成 研究報告

【氏名】 藤枝絢子

【所属】(助成決定時) 京都大学大学院 地球環境学堂

【研究題目】 フィジー諸島共和国における学校を拠点とする地域防災力の向上に関する研究

【研究の目的】

近年、防災における学校の重要性が認識されつつあり、世界各地で防災教育の普及や学校の耐震化を目指した活動が行われてきた。学校は、教育の場だけでなく、コミュニティの活動や情報の共有の場として利用され、教師と児童、保護者や行政など様々な集団が関与し、影響を受けている場である。それゆえ、学校を拠点とする防災への取り組みは、コミュニティの災害リスクの軽減や防災力の強化に有効だと考えられる。

本研究では、サイクロンなどの自然災害が多発するフィジー諸島共和国(以下、フィジーとよぶ)を対象とする。フィジーは、小島嶼国ゆえの特徴(人口の少なさ、分散性)より、政府による対策に限度があり、コミュニティレベルでの脆弱性の軽減、防災力の強化が課題となっている。フィジーでは、ほとんどの学校(小学校・中学校・高等学校)が、コミュニティや現地組織が主体となる学校運営委員会によって所有されており、コミュニティと学校のつながりが強い。そのため、フィジーを事例とし、コミュニティにおける学校の性質、学校を取り巻く社会文化的背景に着目し、地域防災力の向上の基盤としての学校の役割を明らかにすることを目的とする。

【研究の内容・方法】

本研究では、フィジーの学校とコミュニティの関係性、フィジーにおける学校を中心とした防災への取り組みの現状と課題を明らかにし、これらの2点から学校を拠点とする地域防災力の向上の可能性を考察する。本研究では、現地調査による関連文献収集、関係者へのヒアリングを主にすすめた。

フィジーでは、ほとんどの学校(小学校・中学校・高等学校)が、コミュニティや現地組織が主体となる学校運営委員会によって所有されており、分散化がフィジーの教育体制の特徴であるといわれている。小学校 724校のうち教育省が運営主体の学校が2校に対し、運営主体が宗教団体による学校が128校、コミュニティによる学校が554校と大半を占めているなかで、本研究では、実際、どのような学校運営体制をとっているのか、行政、学校運営委員会、コミュニティの関与と役割を把握し、学校とコミュニティの関係を明らかにすることを目的とし、文献調査、現地での教育省行政官、学校関係者、保護者を対象としたヒアリングを行った。

学校における防災への取り組みについて、より実践的な現状や課題を明らかにするために、1つのプロジェクトを対象とした。2005年から2008年12月にかけて、申請者が従事した国際連合地域開発センターが、人間の安全保障基金によって、フィジーを含むアジア・太平洋地域の4か国の都市にて実施したプロジェクト(Reducing Vulnerability of School Children to Earthquake)を選定した。このプロジェクトでは、フィジーの災害対策局及び現地の専門家が主導し、フィジーの首都スバにて、学校の耐震改修、耐震建築マニュアルの作成や技術者への訓練、防災教育教材の開発、学校での防災訓練の実施などの活動が行われた。本研究では、学校の災害に対する安全性の強化を総合的に捉え、学校施設の安全性の強化、防災教育や防災訓練の促進、学校における防災マネジメントの3つの要素に注目し、プロジェクト関連の文献収集、プロジェクトに従事した災害対策局の担当者や専門家、教育省の担当官、学校関係者へのヒアリングを通じて、現状と課題を調査した。

【結論・考察】

学校と運営委員会、コミュニティとの関係性において都市部と農村部に差異が見られた。スバでは、宗教団体が運営主体となる学校が多く、また、保護者の意向によって学校が選定できるため、保護者、運営委員会、周辺コミュニティが必ずしも同じでないが、農村部では、都市部に比べ保護者への教育への関心が低いが、村コミュニティが運営主体となり、村の女性が当番制で給食を作るなど、学校への関与は高いことを確認した。現地調査によって、学校施設の安全性、防災教育や学校の防災マネジメントにおいて、制度的な課題に加え、各学校の現場での課題が挙げられた。しかし、これらの取り組みにおいても、都市部と農村部において差異が見られた。都市部ではコントラクターが学校建設に従事し、農村部では村の大工が学校含め住居や教会の建設を担っており、村の大工は、知識や

技量の高さではなく慣習的に信頼されていることが多いようであった。また、学校における防災教育や防災訓練を主導する教師は、農村部では教師は司祭や医師（保健師）などと同様に数少ない外部者であり、学校よりコミュニティのリーダーや年長者の意見が重要視されることが少なくない。農村部では学校とコミュニティとの関係性が高いが、学校がコミュニティへ及ぼす影響が高いとは限らず、フィジーでは、学校とコミュニティのつながりが強いことが、学校が地域防災力の向上への役割を担うと一概に言えないことが明らかとなった。今後、フィジーの学校とコミュニティの関係の多様性を考慮し、防災における学校の役割の可能性を探っていきたい。